

 取組概要

- 「防災に女性の参加と目線を取り入れる検討会」の実施結果を踏まえ、災害時に職員の子どもの一時預かり場所の設置を検討
- 訓練を実施して改善点を見つけることで、実効性のある制度に向けて更に検討を重ねている

取組のきっかけ 『災害時に女性が参画しやすい環境をつくりたい！』

当時、平成28年熊本地震の被災地に派遣された職員が、被災地で多くの女性職員が発災直後に託児所等がなく、育児・介護などを理由に参集できず、その後、長期間労働ができないことを苦に退職した、という実態を目の当たりにした。

豊橋市で災害が発生した場合にも、職員が不足するかもしれない……



災害対応に女性も参画しやすい環境づくりを検討するため、
「防災に女性の参加と目線を取り入れる検討会」を発足。

災害時に、女性職員もすぐに職場に来られ、安心して働ける環境を目指そう！



事例8 「女性職員の提案により、災害対応にあたる職員の子どもの一時預かり場所の設置を実現！」 愛知県豊橋市

【取組概要】

- 「防災に女性の参加と目線を取り入れる検討会」の実施結果を踏まえ、災害時の職員の子どもの一時預かり場所の設置を検討しました。
- 災害発生時を想定し、子どもの一時預かりの訓練を実施して改善点を見つけることで、実効性のある制度に向けて更に検討を重ねています。

【取組のきっかけ】

- 平成28年熊本地震の発生当時、被災地に保健師として派遣された女性職員が、被災地で多くの女性職員が発災直後に託児所等がなく、育児・介護などの理由で、参集して業務につくことができず、その後、長期間労働をできないことを苦に退職したという実態を目の当たりにしました。
- 豊橋市で災害が発生した場合にも同様のことが発生し、職員が不足するかもしれないといった懸念がありました。
- そこで、その女性職員が豊橋市に戻った翌年度に検討会を立ち上げたいと提案し、災害時であっても女性が参画しやすい環境づくりができるよう、「防災に女性の参加と目線を取り入れる検討会」を立ち上げました。検討会の立ち上げ当初は、検討会の参加対象者を市内の女性職員としていました。
- 検討会では、災害時に女性職員もすぐに職場に来て、安心して働ける環境づくりを目指して検討が行われました。

1 被災地へ派遣された職員の経験から、女性の視点での検討会を立ち上げ！

防災に女性の参加と目線を取り入れる検討会

1. 検討会を立ち上げる前に、防災危機管理課から、被災地に派遣された職員に対して、男女問わず聞き取りを行った これをやったらうまくいった！
2. 委員の人は、防災危機管理課と人事課が協議し、各課に検討会の趣旨を伝えたうえで、最適な職員の推薦を依頼した こんないいことがあった！
 ・どの課の職員が入るとよい事例が出てくるかなどかを考えて委員を選び、外国人や子ども、健康に関わる部署の女性職員が加わった
3. 1年目は女性職員のみで検討していたが、2年目以降は、女性防火クラブや地域包括支援センターなどの地域の女性や男性職員も委員に加わった こんないいことがあった！
4. 2年ごとにテーマを変えて、4年間にわたって検討会を行った こんないいことがあった！
 ・災害時にすぐに参集し、安心して働ける環境をつくるため、1年目には緊急参集支援の方向性について検討した

実際に被災地に派遣された職員の経験や思いを踏まえて検討会が発足された！

被災地での経験を活かして活動！



被災地でのボランティア経験がある職員や、日頃から防災への関心の高い職員などが集まった！



メンバーを入れ替えながら、毎年異なる視点から議論できた！

要望のあった後、具体的な検討につながっています！

災害対応の際に利用できる託児所の設置の要望や、レスパイト支援、要配慮者の非常持ち出し品の検討などにつながった！



20

①被災地へ派遣された職員の経験から、女性の視点での検討会を立ち上げ！

<防災に女性の参加と目線を取り入れる検討会>

1. 「防災に女性の参加と目線を取り入れる検討会」(※1)を立ち上げる前に、防災危機管理課から被災地へ派遣経験のある職員に対して、男女問わず聞き取りを行いました。実際に被災地派遣を経験した職員たちは、避難所の運営などを通して女性が生活しづらい環境であることを感じていました。このような職員の経験や思いが、検討会の発足につながりました。
2. 委員の人選については防災危機管理課と人事課が協議し、どの課の職員が入るとよい事例が出てくるかなどを考慮して選定しました。依頼の際には、各課に検討会の趣旨を伝えた上で、最適な職員を推薦していただけるようお願いしました。その結果、外国人や子ども、健康に関わる部署から、被災地でのボランティア経験がある職員や、日頃から防災への関心の高い職員が集まりました。災害対応に直接的な関係がない部署から、自己推薦で参加した職員もいます。
3. 1年目は女性職員のみで検討していましたが、2年目以降は、女性防火クラブや地域包括支援センターなどの地域の女性や男性職員も委員に加わり、より多様な視点からの意見を取り入れられるようになりました。これにより、メンバーを入れ替えながら、毎年異なる視点から議論を進めることができました。
4. 検討会は4年間実施し、2年ごとにテーマを変えて議論しました。1年目は、災害時にすぐに職場に参集し安心して働ける環境をつくるため、「緊急参集支援の方向性についての検討」というテーマで検討しました。これにより、災害対応の際に利用できる託児所の設置が要望され、2年目以降には避難期のレスパイト支援(※2)や、要配慮者の非常用持出品のなどの検討につながりました。

～4年間の検討テーマ～

【1・2年目】女性が参加しやすい環境整備

【3・4年目】個人・多様性に配慮した環境の整備

※1「防災に女性の参加と目線を取り入れる検討会」は、平成28年度熊本地震での避難所運営の課題を解決するために、災害対策に女性の視点や知見を取り入れることを目的に設置されました。
<https://www.city.toyohashi.lg.jp/33777.htm>

※2レスパイト＝一時休止、休息という意味

2 平常時の資源を活用し、災害対応にあたる職員用の託児所を設置！

子ども一時預かり場所の設置

1. 災害時に職員が安心して災害対応に取り組めるようにするため、検討会から**子どもの一時預かり場所の運用を検討するよう要望した** こんないいことがあった！
2. **本庁舎内の職員を対象にして、庁舎内に託児所を設ける運用とした** これをやったらうまくいった！
3. 育児休業中の職員が来庁した際に利用できるように、庁舎内の職員向け休憩スペースに畳やマットを敷いて**託児スペースをつかった**
 ・**災害時にもこのスペースを活用することにした** さらにいいこと！
4. 市役所内のイベントの際に託児を依頼していた**外郭団体(NPO法人など)と協定を結び、毎年防災訓練の際に、一時預かり場所の開設訓練も実施している** さらにいいこと！
 ・訓練には、市長や管理職等の**トップたちも参加した**

予算や人員などの具体的な検討につながった！

本庁舎の職員向け設備として人員確保などを行い、まずはやってみることができた！

日ごろから使われている託児スペースを災害時にも有効活用することで費用を抑えられた！

訓練後の振り返りを通じて、「(外郭団体の方が発災直後にかけつけられない可能性も踏まえ)市の保育士の職員等も託児に加わっていただくべきではないか」などといった、今後の取組に向けた課題を明らかにできた！

畳やマットを敷いて託児スペースに！

長時間の預かりや庁内完結型の制度など、引き続き検討！



②平常時の資源を活用し、災害対応にあたる職員用の託児所を設置！

<子ども一時預かり場所の設置>

1. 「防災に女性の参加と目線を取り入れる検討会」から子どもの一時預かり場所の運用を検討するよう要望したことで、予算や人員などの具体的な検討につながりました。災害時に子どもの面倒をみる人がいないなどといった課題に対する解決策を時間をかけて検討した結果、提案から5年後に実際に運用できるようになりました。
2. 市内の公立保育園に預けることを検討したものの様々な課題が見えてきたため、まずは本庁舎内の職員を対象にして、庁舎内に託児所を設ける運用にしました。本庁舎の職員向け設備として、後述のやり方で場所や人員確保などを行い、まずはやってみることができました。長時間の預かりや庁内完結型の制度などについては、引き続き検討しています。
3. 育児休業中の職員が登庁した際に利用できるように、庁舎内の職員向け休憩スペースに畳やマットを敷いて託児スペースをつくっていました。日頃から使われている託児スペースを災害時にも有効活用することで、費用を抑えることができました。絵本などの備品は、人事課が持っている備品を借りることにしています。
4. 託児をする保育士の確保については、市役所内のイベントの際に託児を依頼していた外郭団体(NPO法人など)をお願いすることにしました。日ごろの関わりがあったため、スムーズに協定を結ぶことができました。毎年防災訓練の際に、子ども一時預かり場所の開設訓練も実施しています(訓練についても協定の中で定めている)。訓練には市長等のトップたちも参加し、訓練後に振り返りを行っています。ここで「(外郭団体の方が発災直後にかけつけられない可能性も踏まえ)市の保育士の職員等も託児に加わっていただくべきではないか」などといった、今後の取組に向けた課題を明らかにすることができました。